

日本のへそで紡いで織ってまちづくり。にしわ木は今日も元気です。

生活利便性の確保を通じた持続可能なまちづくりを目指し、2つの拠点を設定

- ・医療や福祉機能などの都市機能と行政機能を持ち、交通結節点である東側エリア
 - ・子育て支援施設が集約した複合施設がある新興住宅地が広がる西側エリア
- 西側の拠点整備ノウハウを東側の拠点整備にも活用



産業振興

地場産業のブランド力強化

- ・都市機能集約と併せて播州織のイノベーション効果を最大限に活かし、歩いて暮らせる中心市街地を再生

- ・西脇ファッション都市構想との連携

→播州織が抱える課題に対して、誰が、どのような理念・方針に基づき、どのような事業に取り組んでいくか、という方向性を体系的に示した(平成28年7月)

- ▶ デザイナー等研修生の受入れ人数
目標(H31)15人→実績(H30末)21人
- ▶ 若手デザイナー研究会の参加者数
目標(H31)100人→実績(H30末)452人
- ▶ 国産表示制度の認証取得件数
目標(H31)20件→実績(H30末)26件

- ・デザイナーの呼び込み

→空き店舗を活用したコワーキングスペース「CONCENT」



CONCENT

住宅政策

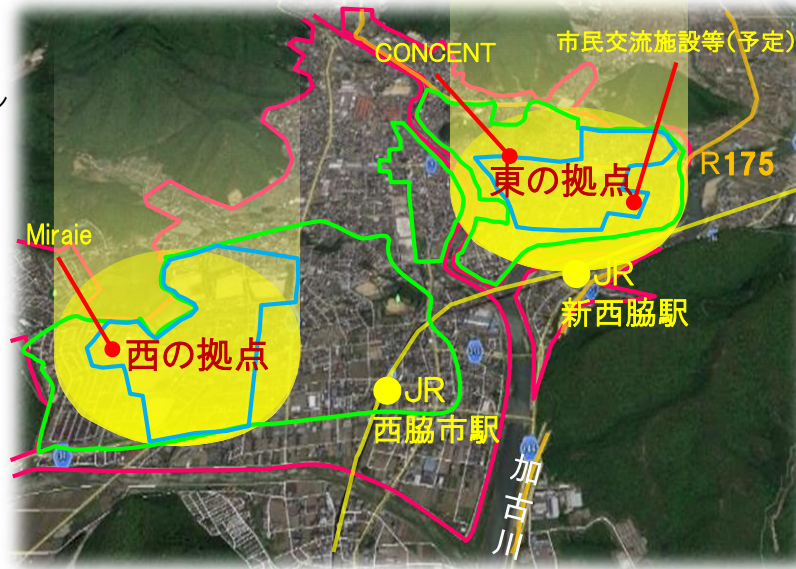
適正な居住機能の誘導

- ・都市のスポンジ化対策

→全国の市町村で初めて低未利用土地利用等指針を策定

- ・まちなか空き家解消に向けた対策推進事業の推進(空き家バンクの設置・運営等)

- ▶ まちなかの空き家解消(目標)
:10戸/年(H31~R22累計220戸)



期待される効果

- 居住誘導区域内の人口密度(32.1人/ha)を維持
- 公共交通^{※2}の延利用者数を18,090人(H29年)から23,000人/年(R22年)に増加
- 誘導区域内の固定資産税評価額を維持
都市機能誘導区域内:19,100円/㎡
居住誘導区域内 :15,300円/㎡

※2 西脇市が運営するコミュニティバスとデマンド型交通

拠点整備

中心拠点機能の誘導

【西の拠点】

- ・茜が丘複合施設「Mirai」の整備(平成27年10月開館)
→図書館やこどもプラザ、コミュニティセンターを備えた、複合施設の整備

▶ Mirai来場者数

計画:20万人/年→実績:50万人/年

▶ 図書館利用者数

H23: 48,676人/年
→H27:142,108人/年(Mirai開館)
→H30:195,409人/年

【東の拠点】

- ・市民交流施設等(予定)の整備
→誘導区域外にある老朽化した市庁舎を都市機能誘導区域内へ移転。併せて、市民交流施設を整備予定。



Mirai



市民交流施設等(予定)

交通

利便性の高い公共交通網の形成

- ・公共交通ネットワークの構築^{※1}

→まちなか循環バス・デマンド型交通(2021年度運行開始予定)

- ・利便性の向上^{※1}

→利用しやすい利用料金(市内均一料金制度)の検討など

※1 西脇市地域公共交通網形成計画より